

2020年度決算報告

学校法人京都橘学園の2020年度決算は、2021年5月31日の理事会及び評議員会で承認されました。

経常的な収入である教育活動収入、および教育活動外収入は、前年度と比較して6億1,746万円の増加となりました。収入の大部分は、大学・中高・こども園の学生生徒等納付金で、経常収入の78.2%を占め、大学では、収容定員の変更等による在籍者数の伸び、中学・高等学校においては新入生の伸びによる生徒数の増加により、前年度比較で103.1%となっています。入学検定料が大半を占める手数料収入では、大学における志願者の増加により、前年度比較で113.0%と増額となりました。寄付金収入では、医療系学科を中心とした研究目的の奨学寄付金に伴い、前年度比較で107.3%と増額となりました。国及び京都府等から交付される補助金の事業活動収入に占める割合は15.3%で、経常費・運営費補助金は2020年度から開始された修学支援新制度、および、本学が学生・生徒に行うコロナ対策に対する補助金交付の関係から前年度対比で134.7%の増額となり、こども園の補助金である施設型給付費は2019年10月から始まった利用者負担額等無償化に伴い、前年比1,445万円の増額となり、補助金全体では前年度比較で110.9%と増額となりました。

支出面では、経常的な支出である教育活動支出、および教育活動外支出が前年度より7億2,677万円増加しました。人件費では、収容定員増加等による教職員の採用と、こども園の保育体制強化等による採用増により前年度比較で103.1%、教育研究経費では、新教室・管理棟の建設により前年度比較で117.8%の4億8,488万円増額、管理経費では、2021年4月に開設する3学部4学科に対する広報費等の増加に伴い前年度比較で112.9%の1億658万円と増額となりました。

経常収支差額は前年より収入・支出とも増加し、前年度差額比率13.0%から若干下げた11.0%となりましたが、例年と同水準で推移し、教育研究活動以外の特別収支を加算した基本金組入前当年度収支差額では11億1,970万円を計上しております。

基本金組入については、第1号基本金において、新教室・管理棟の建設、建設に伴う機器備品等の購入、グラウンド整備計画にもとづき実施された隣接地の購入による組入れ、既存棟改修工事をはじめとする施設設備面の充実による組入れを行い、組入総額合計33億1,450万円となりました。第3号基本金では、奨学基金への寄付に伴って増額となっております。これにより、2020年度は21億9,480万円の支出超過となり、繰越支出超過額は47億7,144万円となりました。

本学園では2015年から始まった第1次マスタープラン計画を点検・評価し、2019年度から第2次マスタープランをスタートさせました。このマスタープランのもと2020年度は、大学において、2021年4月に3学部4学科の開設に伴う教室棟等の建設を行い、中学・高等学校においては、グラウンド整備に着手、校舎では各教室にプロジェクタ整備等を行いました。たちばな大路こども園では、教育・保育の質向上に向けた保育士体制の整備・強化を行いました。

私立学園を取り巻く状況は、令和2年度版今日の私学財政(日本私学振興・共済事業団)によると、事業活動収支差額がマイナス(帰属的な収入で消費的な支出が賄えない)の学園は全国で大学法人555大学法人中236大学法人(42.5%)となっております。こうした状況にあって、本学園の経営状況を示す事業活動収支差額比率は11.0%と、全国の大学法人平均4.7%(令和元年度)より高い水準を保っており、現状においては、依然安定かつ健全な経営状態であるといえます。